

教育史だより



第11号（平成26年12月12日更新）

スクールカウンセラー制度の始まり

現在のスクールカウンセラー制度は、臨床心理士等の有資格者(及びそれに準ずる者)を学校に派遣するもので平成7年度に始まっています。しかし、昭和20年代にも、スクールカウンセラー制度があり、教師が専任カウンセラーとして活動していたのでした。

昭和20年代中盤における学校現場では、「個人としての生徒」を理解し尊重することが重視されており、「指導」「生活指導」「生徒指導」などの訳語があてられていた「ガイダンス」の研究や実践が盛んに行われていました。その「ガイダンス」の中からやがて「カウンセリング」が特化され、独立した分野を形成していきました。

文部省が昭和25年に「カウンセラー養成講習」を実施すると、翌26年4月、神奈川県教育委員会は全国に先駆けて専任カウンセラー制度を始めました。この時カウンセラーに任命されたのは各校の教師の中から選ばれた12名で、「定員外」であり、授業はもたないことになっていました。最初のうちは、当事者たちもカウンセラーとは何をするものか戸惑っていたようですが、昭和26年8月に、6日間にわたって県教育委員会が開催したカウンセラー講習会によって、カウンセリングの本質やカウンセラーの職務内容がはっきりしたようです。当時一流の講師陣を迎えて開催されたこの講習会には、県下から推薦された53名の外、他県からの参加もあり、座席も足りなくなるほど盛況であったといわれています。

専任カウンセラーに任命された教師と県教育委員会指導主事らによって昭和29年1月に「神奈川県カウンセリング研究会」が結成され、昭和31年4月、同会のメンバーが中心となって執筆した、『カウンセリングの手引 第一集』（写真1）を県教育委員会は全国に先駆けて発行しました。同書は2年後に『生活指導の手引—学級担任と相談援助—』として、理論面を整理するとともに事例を増補して再刊されました。当時「カウンセリング」という言葉が一般には親しみにくかったようで、書名が変更されるとともに、「カウンセリング」は「相談援助」と言い換えられています。

『かながわ教育』は、昭和 24 年 6 月に創刊された県教育委員会指導課編集発行の教育情報誌(月刊)ですが、昭和 29 年 7 月号(61 号)を「カウンセリング」特集号(写真 2)とし、前記の専任カウンセラーを中心として執筆された 15 本の論文を掲載しています。出発したばかりの神奈川の学校カウンセリングの状況やカウンセラーに任命された教員の努力と「開拓者の苦悩」を知る上で貴重な資料です。

専任カウンセラー制度は、生徒数の増加や教員の定数確保の困難などから、授業をもたないはずの専任カウンセラーの担当時間数が次第に増加し、昭和 30 年代半ばまでには制度として自然消滅に近い状況になっていきました。その後、昭和 38 年に県教育委員会は制度を復活させますが、昭和 44 年を最後に専任カウンセラーの配置は終了しました。

写真 1 『カウンセリングの手引 第一集』(昭和 31 年 4 月)

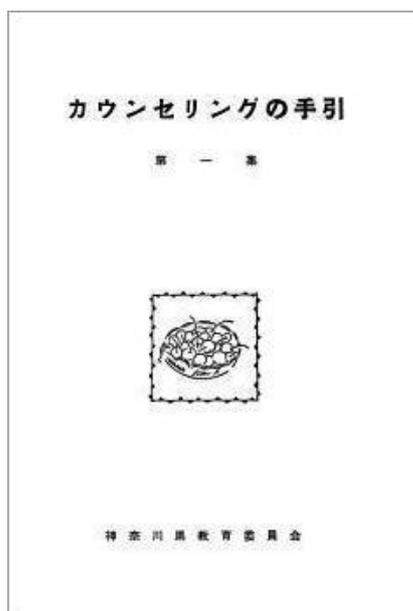
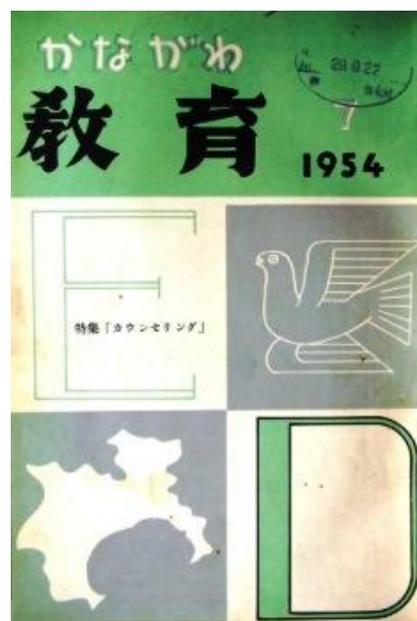


写真 2 『かながわ教育』特集「カウンセリング」(昭和 29 年 7 月)



< 参考資料 >

神奈川県教育委員会 1964 『個人指導とカウンセリング ―専任カウンセラーの活動―』

神奈川県立総合教育センター 2011 『資料 神奈川の学校カウンセリング ―昭和 20 年代から 30 年代にかけての専任カウンセラー制度の創設と展開―』

問合せ先

神奈川県立総合教育センター
学校教育支援課 学校支援班
(0466)81-1659